

2012年9月25日

調査レポート
















グラフで見る東海経済 (2012年9月)

【今月の景気判断】

東海経済は、横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。東海3県の鉱工業生産は3ヶ月連続で減少し、雇用環境の改善が頭打ちとなったほか、賃金も減少しつつある。個人消費は、好調だった自動車販売がエコカー補助金終了前の駆け込みもあまり見られないまま鈍っており、スーパーやコンビニ販売額も2ヶ月連続で減少した。企業の設備投資は増加傾向にあるものの、輸出の伸びは一服し、生産も減少している。

今後は、エコカー補助金終了による落ち込みを新車投入効果でカバーできない可能性が高く、自動車の生産水準はさらに低下すると見込まれる。欧州財政金融危機に加え、中国経済の減速により輸出の伸びが鈍化しており、欧米の追加金融緩和の効果や円高、反日デモの影響など、輸出環境の変化に注意が必要である。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→			輸出	→		→
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	→		→	生産			
設備投資	↗		↗	雇用	→		
公共投資	→		→	賃金	→		

(注) 1.3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気 ～米中景気の先行き不透明感、欧州の財政金融危機の行方、世界的な追加金融緩和の効果
- ・企業活動 ～エコカー補助金終了後の自動車の生産・販売動向、円高再燃の懸念、中国の反日デモの影響
- ・家計 ～雇用・所得環境の先行き、自動車生産の減少が消費者マインドに与える影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

エコノミスト 内田俊宏 (chosa-report@murc.jp)

〒460-8621 名古屋市中区錦3丁目20-27

TEL: 052-203-5321

【各項目のヘッドライン】

項目	8月のコメント	9月のコメント	ページ
1. 景気全般	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	3~4
2. 生産	横ばい圏で推移	減少している	5~7
3. 雇用	持ち直しの動きが弱まっている	持ち直しの動きが一服している	7~8
4. 賃金	横ばい圏で推移	弱含んでいる	9
5. 個人消費	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	10~11
6. 住宅投資	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	12
7. 設備投資	増加しつつある	増加しつつある	12~13
8. 公共投資	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	13
9. 輸出入	輸出、輸入とも増加が一服	輸出、輸入とも増加が一服	14~15
10. 物価	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい	15
11. 金融	預金は増加、貸出は小幅に増加	預金は増加、貸出は減少	16
12. 倒産	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに増加	16

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料: 「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/report/research/list.php>

【前月からの変更点】
1. 景気全般

概ね横ばい圏だが、生産の減少により雇用・所得環境が弱含んでいる。輸出の伸びも弱まっている。

2. 生産

自動車の増産が一服し、自動車部品や工作機械など関連産業の生産にも波及している。

3. 雇用

愛知県の有効求人倍率は前月比で14ヶ月ぶりに悪化、岐阜県も同8ヶ月ぶりに悪化した。

4. 賃金

所定外給与の伸びが弱まり、現金給付額が減少したほか、勤め先収入と定期収入も減少した。

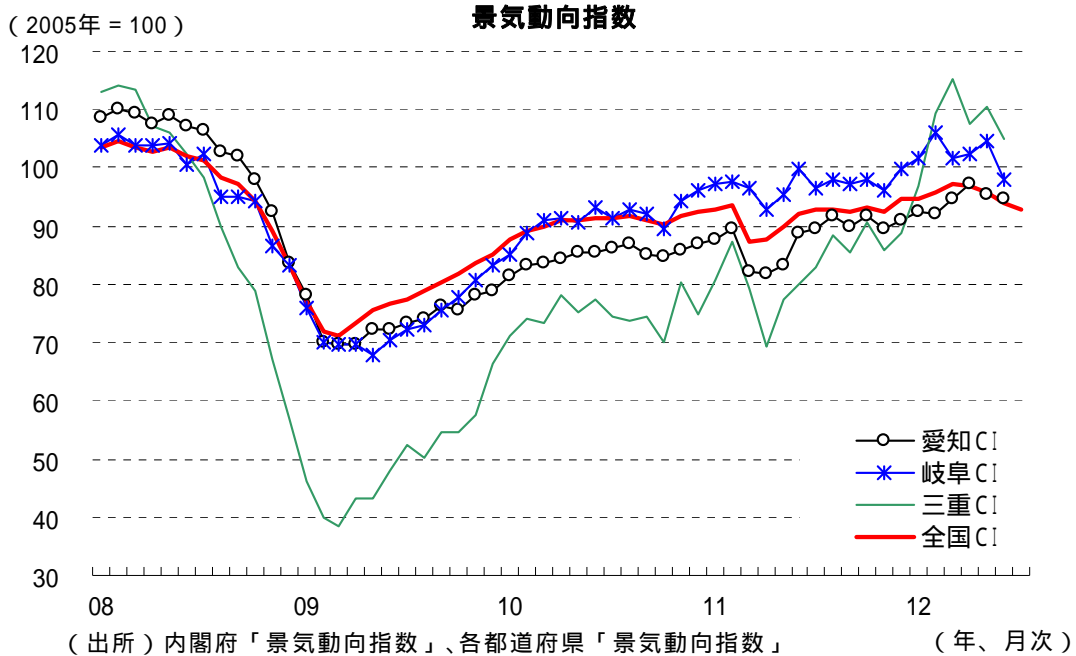
【主要経済指標の推移】

経済指標		11 4-6	11 7-9	11 10-12	12 1-3	12 4-6	12 3	12 4	12 5	12 6	12 7	12 8
景気全般	景気動向指数 愛知（C I、一致指数）	84.5	90.4	90.8	93.2	95.9	94.8	97.3	95.5	94.8		
	岐阜（C I、一致指数）	96.1	97.4	98.0	103.1	101.7	101.7	102.3	104.7	98.1		
	三重（C I、一致指数）	75.5	85.7	88.5	107.2	107.6	115.2	107.4	110.5	104.9		
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI）	36.8	49.5	46.2	48.6	48.2	52.7	50.8	48.0	45.7	44.9	42.4
	（先行判断DI）	42.7	48.8	44.5	47.9	48.6	49.2	50.8	49.9	45.2	43.3	42.7
	短観業況判断DI（大企業製造業）	-25	20	4	17	5	4 <9月予想>					
	（中小企業製造業）	-29	-4	-7	-5	-10	-11 <9月予想>					
（非製造業）	-24	-13	-4	-3	0	-4 <9月予想>						
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5							
非製造業(兆円)	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2							
生産	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	-11.4	15.5	0.7	8.0	-0.2	2.6	1.7	-4.9	-0.2	-2.1	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	-11.7	15.9	0.7	6.3	0.6	-0.8	3.2	-2.4	-2.5	-2.4	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	0.6	2.9	-1.8	2.6	6.3	10.9	4.7	-6.6	-0.9	7.6	
	鉱工業生産 輸送機械（ " ）	-22.9	45.7	5.6	12.5	2.7	8.8	8.8	-11.7	-6.5	1.2	
	一般機械（ " ）	3.9	1.9	-1.8	0.7	-0.1	0.8	1.9	-1.8	-3.1	-0.6	
	電子部品・デバイス工業（ " ）	-13.5	-2.7	0.9	10.1	-3.9	-15.5	-3.9	-1.9	29.8	-18.3	
	プラスチック製品工業（ " ）	-6.3	11.5	2.5	8.0	4.9	5.1	5.5	-4.6	-2.8	-1.4	
	化学（ " ）	-1.5	-1.1	0.4	-5.7	1.9	-7.4	3.9	1.0	6.1	-2.3	
	電気機械（ " ）	-6.2	7.7	-1.6	1.1	3.8	6.0	1.4	2.8	-6.6	0.7	
	金属工作機械受注 総受注(億円)	375.8	372.9	363.5	322.2	334.6	368.3	335.0	329.7	339.2	357.7	
国内受注(億円)	107.3	119.2	116.5	113.9	105.4	142.7	109.4	103.8	103.0	107.1		
海外受注(億円)	268.4	253.7	246.9	208.3	229.2	225.6	225.6	225.9	236.2	250.6		
大口販売電力量	-2.4	-0.5	1.9	4.9	6.9	8.0	10.2	10.0	1.3	1.1		
雇用	完全失業率(原数値、%)	3.9	3.5	3.5	3.5	3.8						
	就業者数(原数値、万人)	770	772	771	763	761						
	常用雇用指数 愛知	99.7	99.5	99.5	99.0	99.6	98.6	99.3	99.8	99.8		
	岐阜	99.9	99.8	99.5	99.1	99.6	98.0	99.3	99.6	100.0		
	三重	97.5	97.1	97.4	99.4	99.9	99.3	100.3	99.8	99.6		
	有効求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	0.81	0.92	0.98	1.05	1.19	1.09	1.18	1.20	1.20	1.19	
	岐阜(季節調整値、倍)	0.76	0.81	0.80	0.92	1.01	0.96	0.99	1.02	1.03	1.01	
三重(季節調整値、倍)	0.67	0.72	0.75	0.85	0.95	0.89	0.94	0.97	0.94	0.94		
新規求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	1.29	1.44	1.57	1.72	1.85	1.80	1.85	1.91	1.80	1.78		
岐阜(季節調整値、倍)	1.16	1.24	1.26	1.45	1.48	1.47	1.53	1.48	1.44	1.47		
三重(季節調整値、倍)	1.02	1.16	1.24	1.39	1.41	1.45	1.46	1.41	1.37	1.41		
賃金	現金給与総額	-1.5	1.5	0.1	-0.5	-0.2	-0.4	0.5	1.0	-1.4		
	所定内給与	-1.2	-0.7	-0.6	-0.8	-1.2	-0.9	-1.9	-0.5	-1.2		
	所定外給与	-6.3	2.4	7.4	9.9	21.7	15.1	26.7	25.9	13.0		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入 勤め先収入	-5.9	2.4	-1.5	4.5	0.4	1.8	1.5	-3.2	2.1	-5.2	
定期収入	0.6	-1.7	-0.2	7.0	1.6	6.4	6.2	-1.1	0.0	-2.6		
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出	0.7	-8.8	-1.1	-4.8	-4.2	-9.2	-5.2	-0.1	-7.3	2.2	
	百貨店販売額(名古屋市内)	-5.0	-5.1	-1.3	-0.3	0.0	2.4	0.2	-1.5	1.3	-4.1	1.9
	百貨店+スーパー販売額(名古屋市内百貨店除く)	0.8	-0.5	-0.8	0.4	-1.0	0.5	-2.0	1.7	-2.5	-4.9	
	コンビニエンスストア販売額	5.9	3.0	9.4	2.4	2.6	1.2	6.2	3.2	-1.3	-1.9	
	新車登録台数(除軽)	-42.4	-18.0	29.0	53.4	74.2	77.9	105.5	85.1	53.3	42.5	
	家電販売額	13.3	-17.0	-43.6	-19.7	-28.1	-28.1	-12.5	-26.9	-38.9	-28.0	
	消費者態度指数(一般世帯、原数値)	35.1	38.7	38.6	40.0	41.3	40.5	41.0	41.1	41.9	41.0	42.2
トヨタ国内生産台数(季節調整済、万台)	13.9	26.3	28.5	33.5	30.8	35.3	32.5	30.7	29.1	30.7	28.8	
住宅投資	新設住宅着工戸数(季節調整済年率換算、千戸)	97.2	114.8	91.8	97.3	97.2	100.7	97.7	100.6	93.4	97.4	
	(前年比、%)	-4.1	9.6	-13.8	-7.4	0.0	-2.2	-2.4	6.3	-3.7	-19.0	
設備投資	法人企業統計設備投資(製造業)	-12.6	-8.0	-10.5	-3.5	19.4						
	(非製造業)	-5.6	1.6	1.7	-12.5	20.5						
企業立地件数	-	-	-	-	-	8	11	18				
公共投資	公共工事請負額	-19.7	-6.2	-5.7	-0.7	10.5	-7.1	-10.2	42.7	25.8	13.5	8.3
輸出入	実質輸出(季節調整済、07/12=100)	66.0	86.4	84.4	85.4	90.5	84.9	91.9	93.2	86.4	87.5	
	通関輸出(金額ベース、円建て)	-17.1	3.9	0.4	5.0	30.5	14.7	34.4	51.2	12.6	2.5	7.4
	実質輸入(季節調整済、07/12=100)	99.0	102.8	98.5	98.5	104.4	100.1	103.4	105.8	104.1	107.5	
	通関輸入(金額ベース、円建て)	19.3	25.6	21.6	13.0	6.5	11.1	8.9	11.0	-0.5	7.8	-5.1
物価	消費者物価指数(除く生鮮)	-0.2	0.1	-0.1	0.3	0.3	0.5	0.6	0.3	0.1	0.1	
	(食料及びエネルギーを除く総合)	-1.0	-0.7	-1.2	-0.7	-0.3	-0.5	-0.2	-0.4	-0.5	-0.4	
金融	国内銀行預金残高	2.1	2.9	3.2	3.4	2.5	3.6	2.1	2.6	2.8	1.3	
	国内銀行貸出残高	0.1	0.7	1.4	2.2	0.4	2.3	1.3	-0.2	0.2	-0.8	
倒産	倒産件数	29.6	-14.3	2.7	-17.6	-8.7	-39.4	-5.8	6.6	-24.2	11.9	37.3

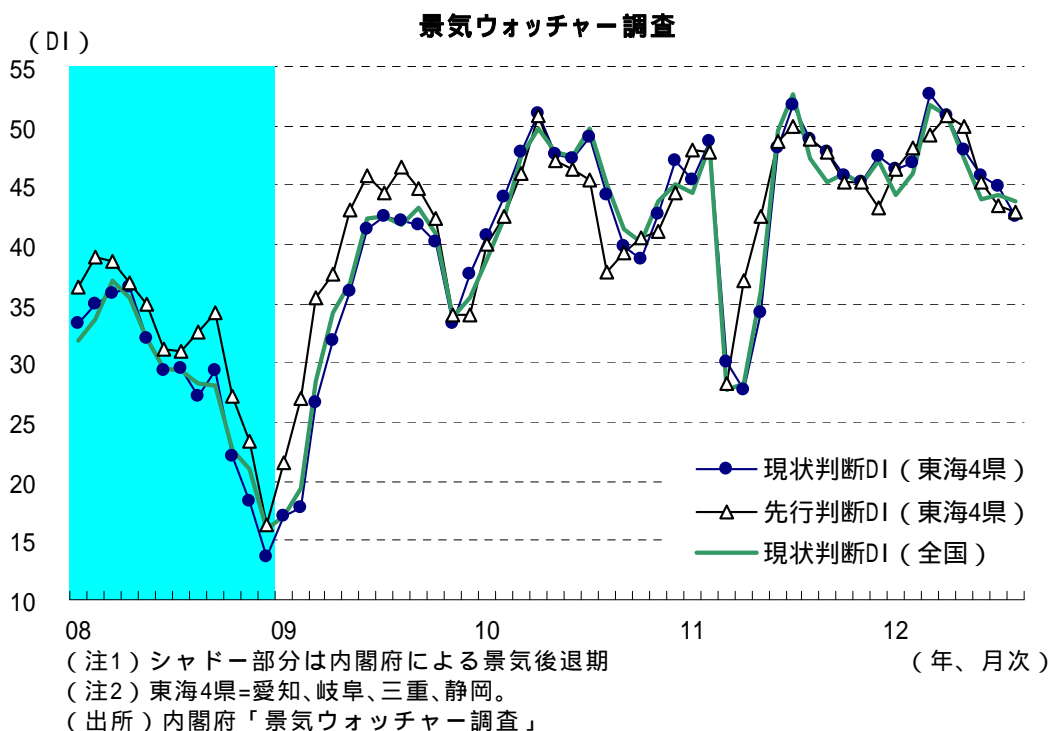
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き

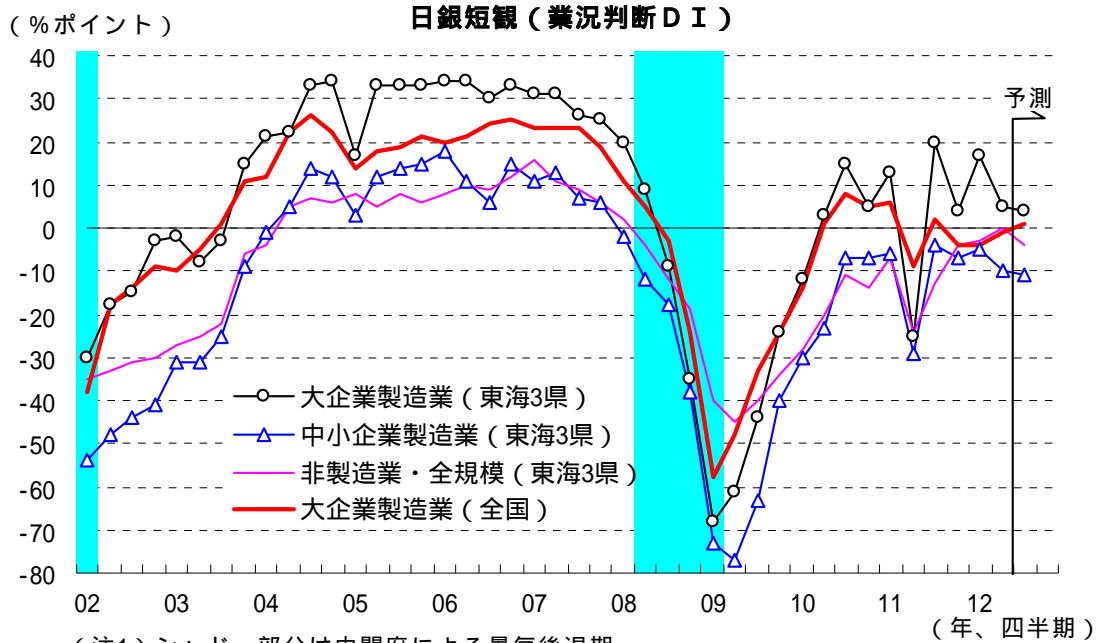
○6月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が鉱工業生産や有効求人数、大口電力、企業収益率などがマイナスに寄与し、2ヶ月連続で低下した。岐阜県と三重県も大幅なマイナスに転じた。先行指数は、愛知県と岐阜県が低下した。



○ 8月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DIが前月差-2.5ポイントと5ヶ月連続で悪化した。家計動向関連の現状判断DIも同-1.9ポイントと低下しており、エコカー補助金終了にともない、自動車関連だけでなく運輸・卸小売・サービス業などへの波及を懸念する声が増えている。東海4県の先行判断DIは同-0.6ポイントと4カ月連続で低下している。

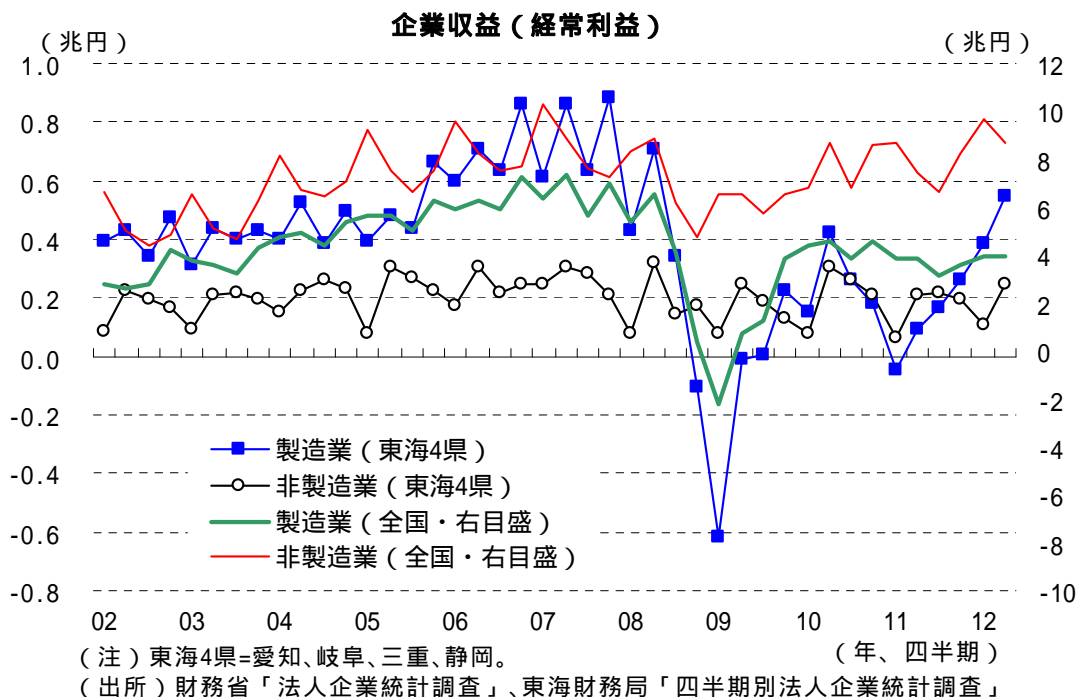


○日銀短観6月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I（「良い」-「悪い」）は+5と、自動車の挽回生産で高水準だった前回3月調査から12ポイント悪化した。中小製造業も-10と前回調査から5ポイント悪化した。大企業製造業の業況判断D Iの9月予測は+4と1ポイント悪化する見通しで、改善見通しの全国に比べて慎重な見方となっている。



(注1) シャドー部分は内閣府による景気後退期
 (注2) 調査対象企業見直し時における前回調査の計数は見直し後で継続。
 (注3) 東海3県=愛知、岐阜、三重。
 (出所) 日銀、日銀名古屋支店「企業短期経済観測調査」

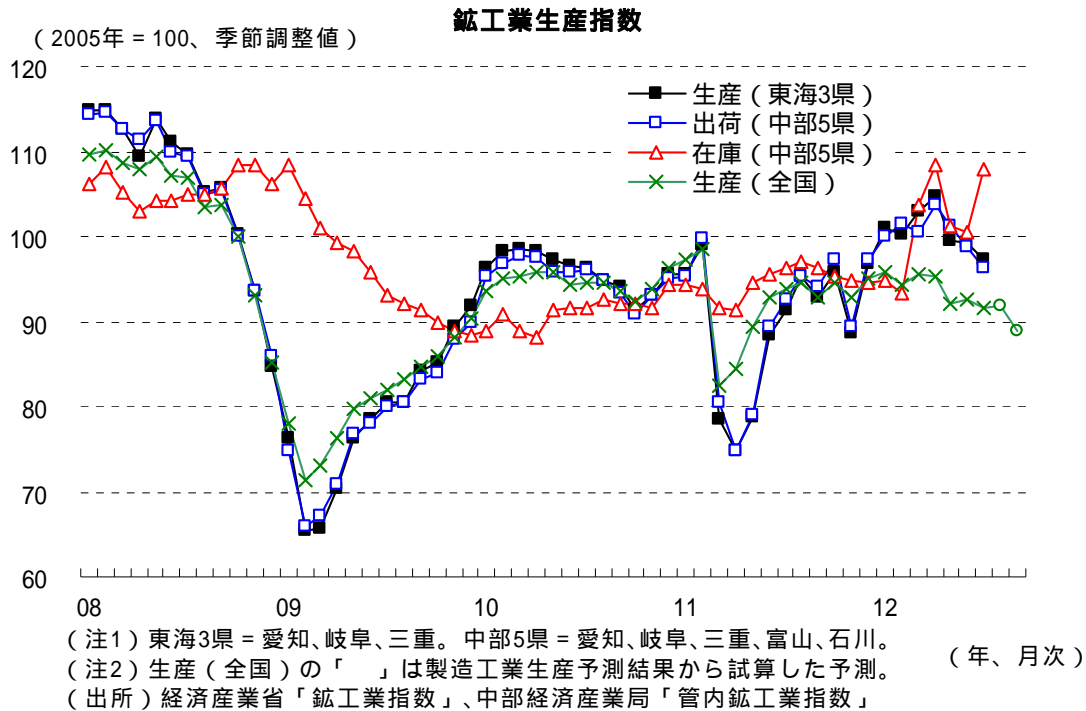
○2012年4～6月期の東海4県の企業収益（経常利益、製造業）は増益が続いており、震災前のピーク（10年4～6月期）の水準を初めて上回った。非製造業は前年同期比で増加したが、水準は低い。今後も、米国経済の持ち直しにより製造業の企業収益は緩やかな増加基調が見込まれるが、中国経済の減速や円高などが業績の下押し要因となり頭打ちとなってくるだろう。



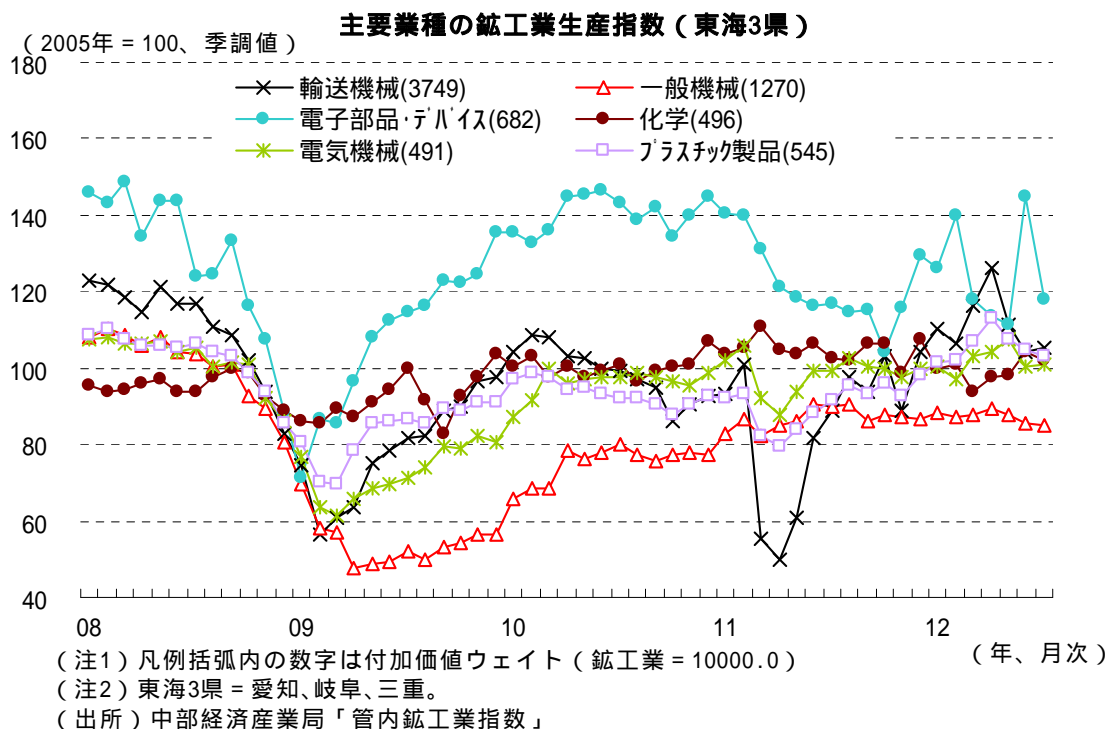
(注) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
 (出所) 財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

2. 生産 ~減少している

○7月の東海3県の鉱工業生産指数は前月比-2.1%と3ヶ月連続で低下した。自動車の挽回生産が一段落したことに加え、エコカー補助金終了を睨んで生産が減少している。輸送機械は上昇したが、自動車向けのプラスチック製品や一般機械などが低下し、生産全体で全国を上回る低下幅となった。先行きは、エコカー補助金終了や輸出の鈍化により弱い動きが続くと見込まれる。

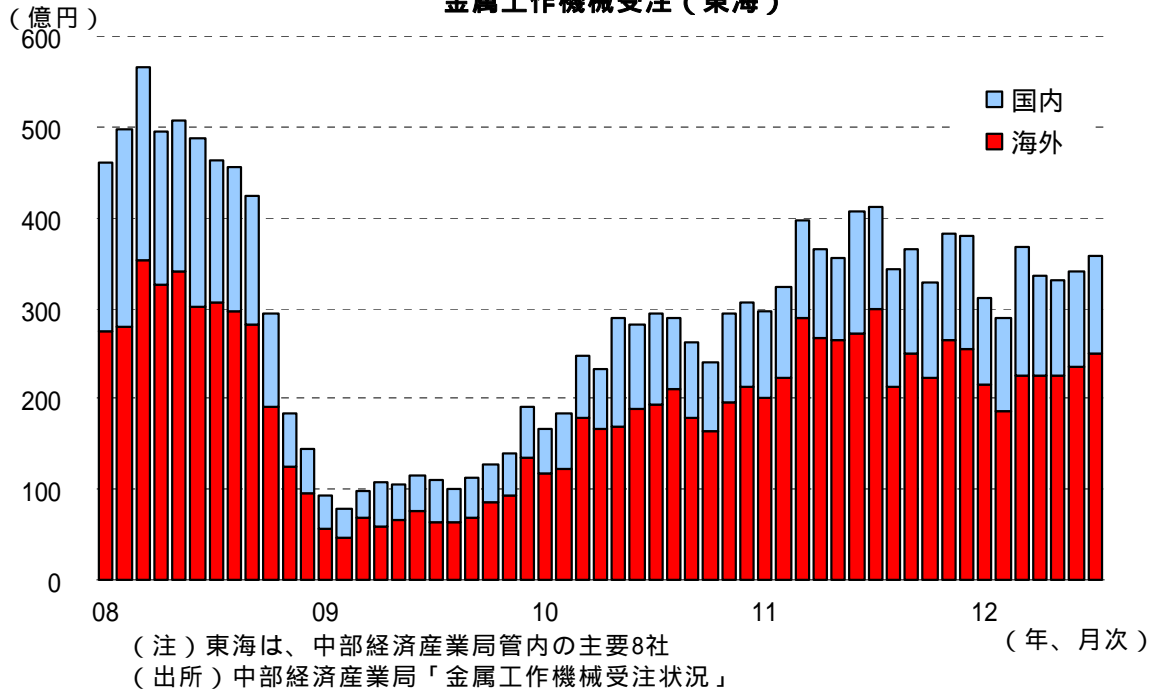


○ 業種別にみると、輸送機械工業が前月比+1.2%と3ヶ月ぶり、電気機械が同+0.7%と2ヶ月ぶりに上昇したものの、自動車向けを中心にプラスチック製品(同-1.4%)や一般機械(同-0.6%)が低下したほか、スマートフォン向けが好調だった電子部品・デバイス(同-18.3%)も低下した。

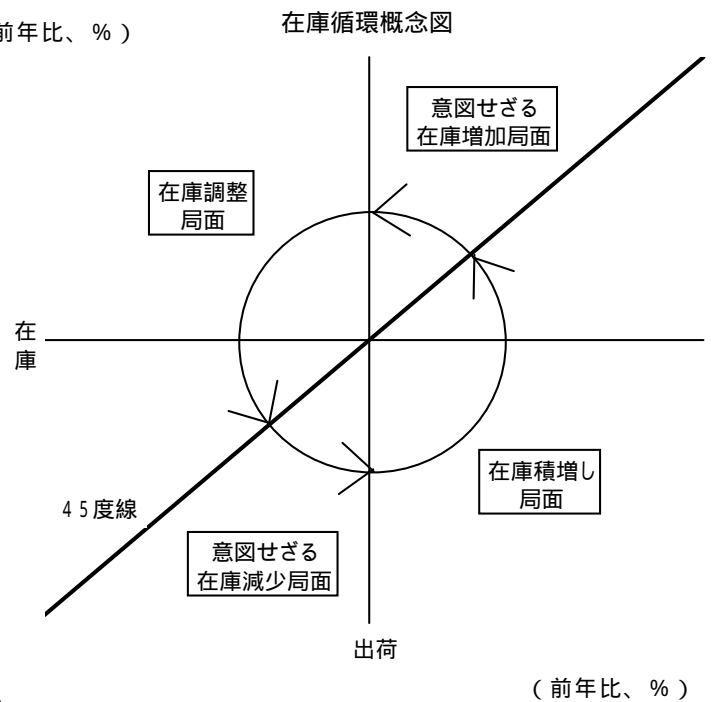
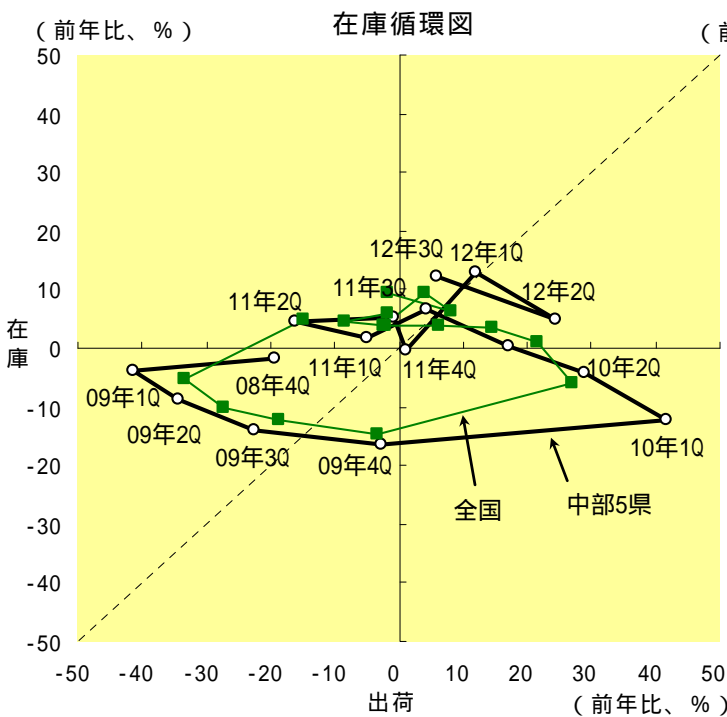


- 7月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比-12.8%と6ヶ月連続で前年割れとなった。国内受注は同-4.2%と2ヶ月連続で減少し、海外受注は同-16.1%と6ヶ月連続で二桁マイナスとなった。欧州向けが同-30.1%と8ヶ月連続で減少したほか、米国向けも同-24.4%と大幅に減少した。アジア向けの減少は同-2.5%と小幅だが、中国向けは同-58.0%と大幅に前年を下回った。

金属工作機械受注（東海）

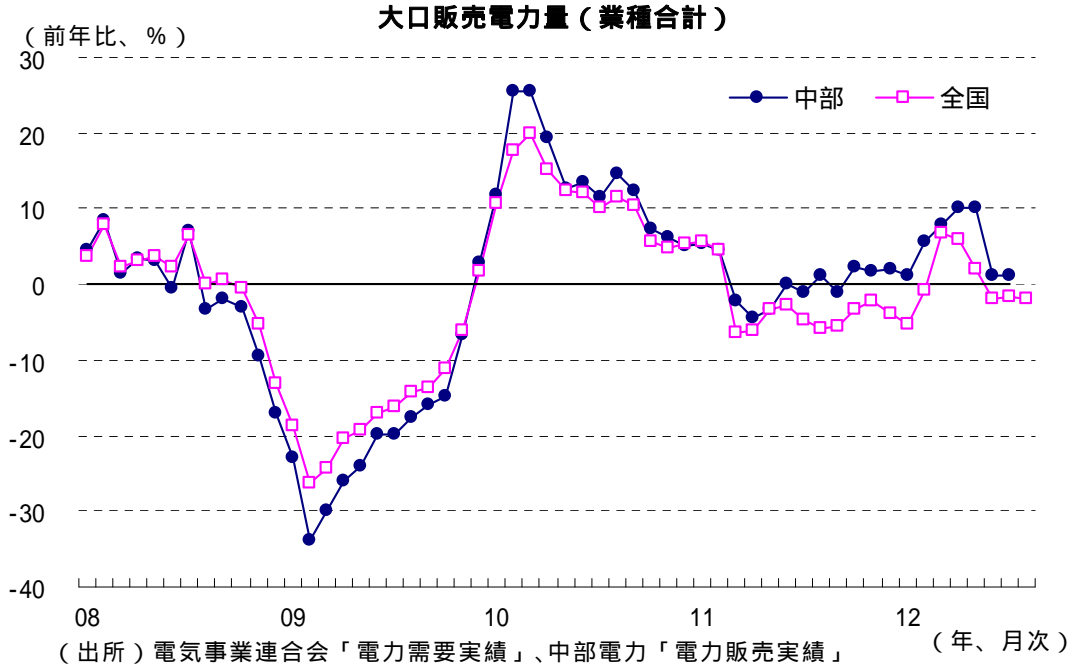


- 7月の中部5県の出荷は、前年比では+6.2%と伸びたが、前月比では自動車関連を中心に-2.4%と減少した。在庫は同+7.6%と増加した。



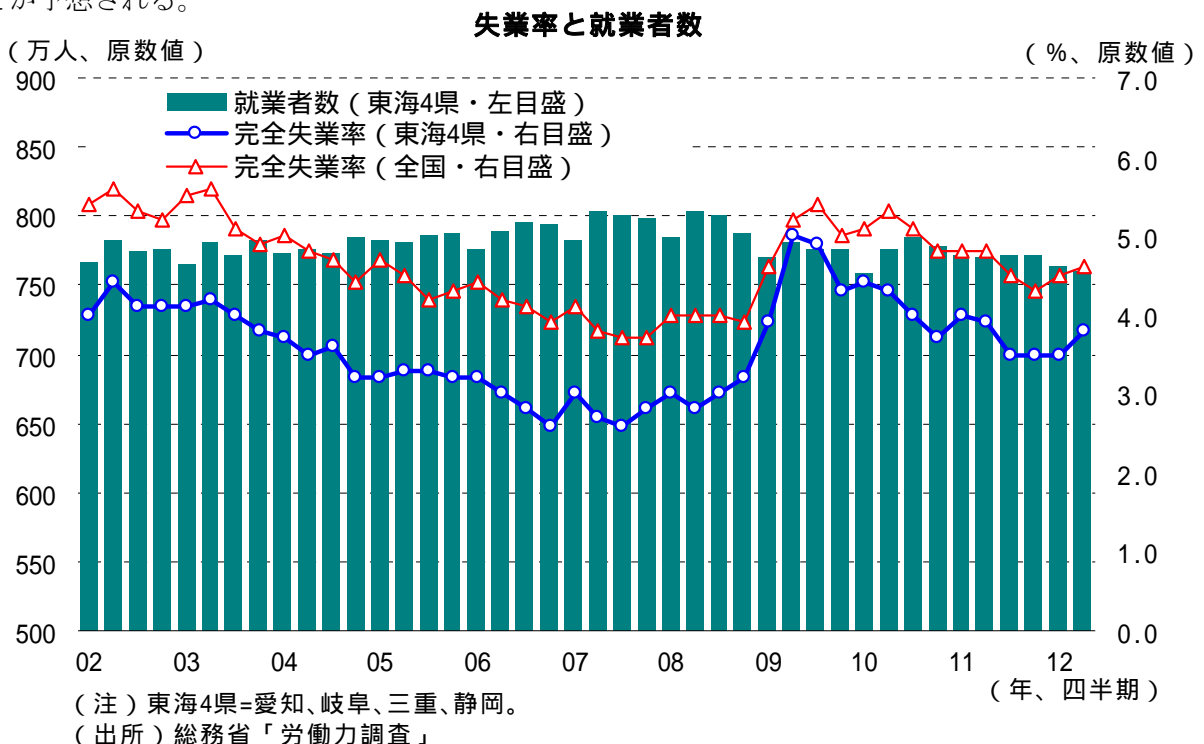
(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
(注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
(注3) 直近12年3Qの出荷、在庫は7月の前年比
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

○7月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、前年比+1.1%と10ヶ月連続で増加したが、前月の同+1.3%からは小幅に鈍化した。自動車生産のピークアウトにより機械工業向けが+4.3%と前月の+5.5%から着実に鈍化傾向にある。自動車向け鋼材を生産する鉄鋼業向けも+5.4%と増加しているものの、前月の+8.1%からは伸び率が縮小している。

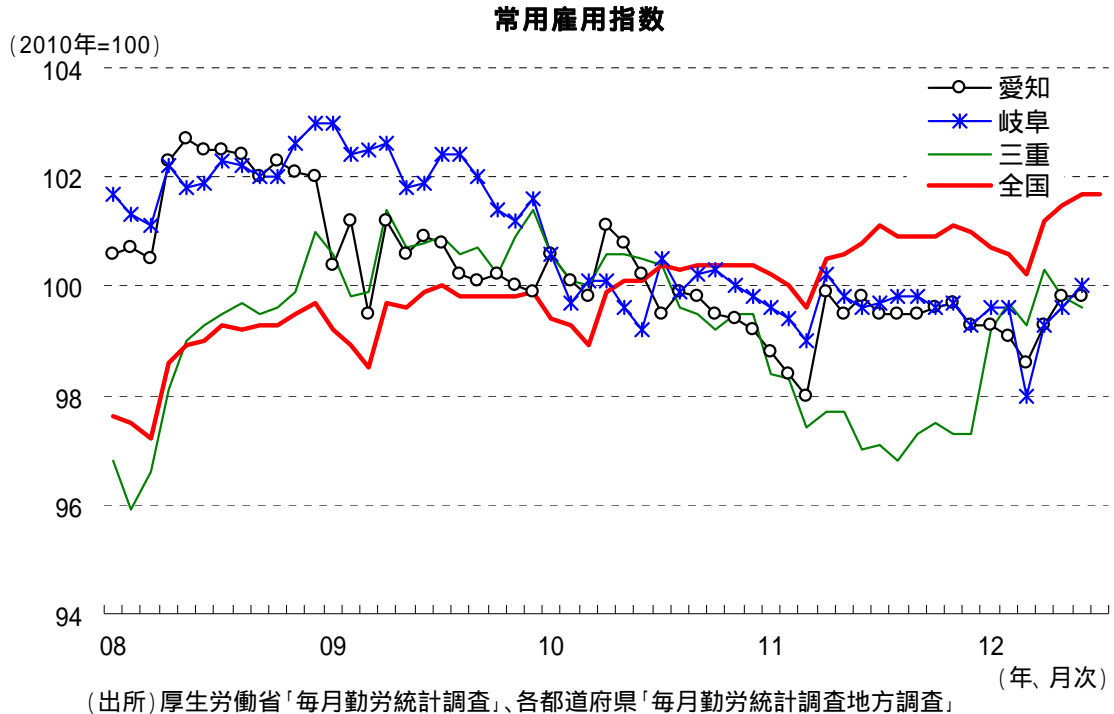


3. 雇用 ~持ち直しの動きが一服している

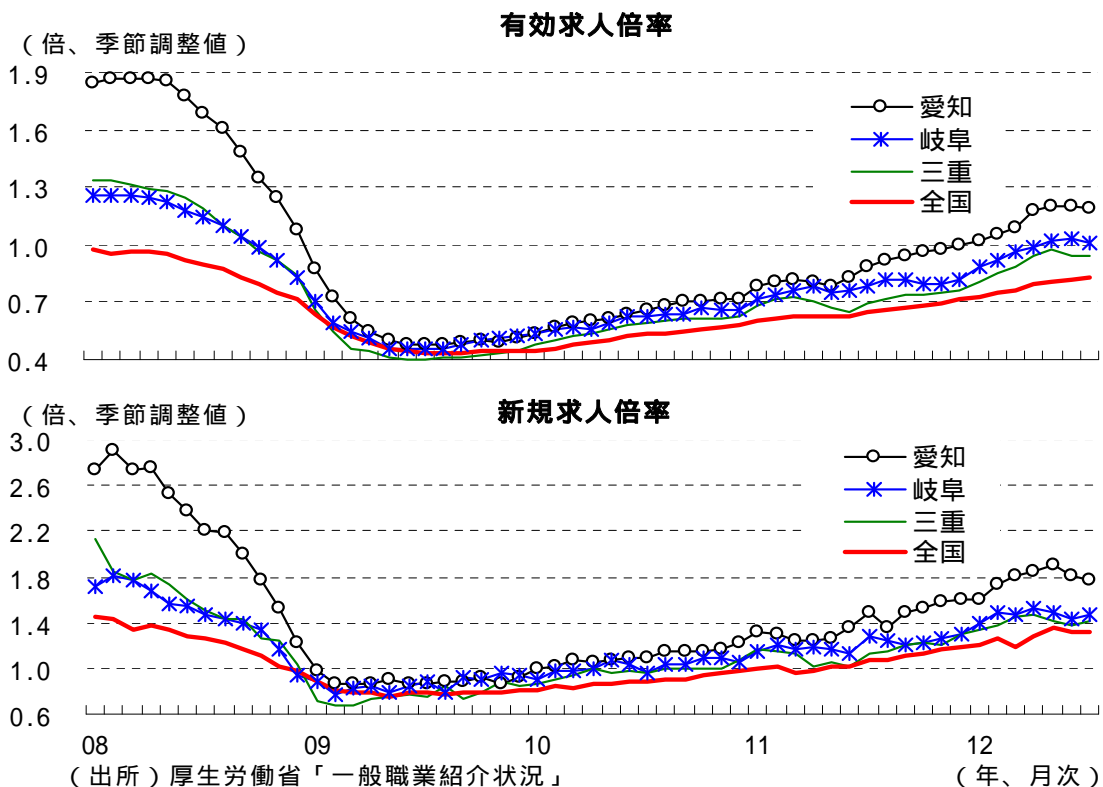
○2012年4～6月期の東海4県の完全失業率は3.8%（前期比+0.3%ポイント）と悪化したが、全国の4.6%と比べて低水準で推移している。2012年4～6月期の就業者数は前期比2万人の減少となり、自動車の増産が一服した影響が出てきている。今後の雇用情勢は、自動車生産の減少にともない厳しさが増すことが予想される。



○6月の東海3県の常用雇用指数は全国に比べて弱い動きが続いている。前年の水準が大きく低下していた三重県は前年比+2.7%と6ヶ月連続で上昇しているが、愛知県は横ばいとなり、岐阜県は同+0.4%と4ヶ月ぶりに上昇したものの、ほぼ横ばいとなっている。



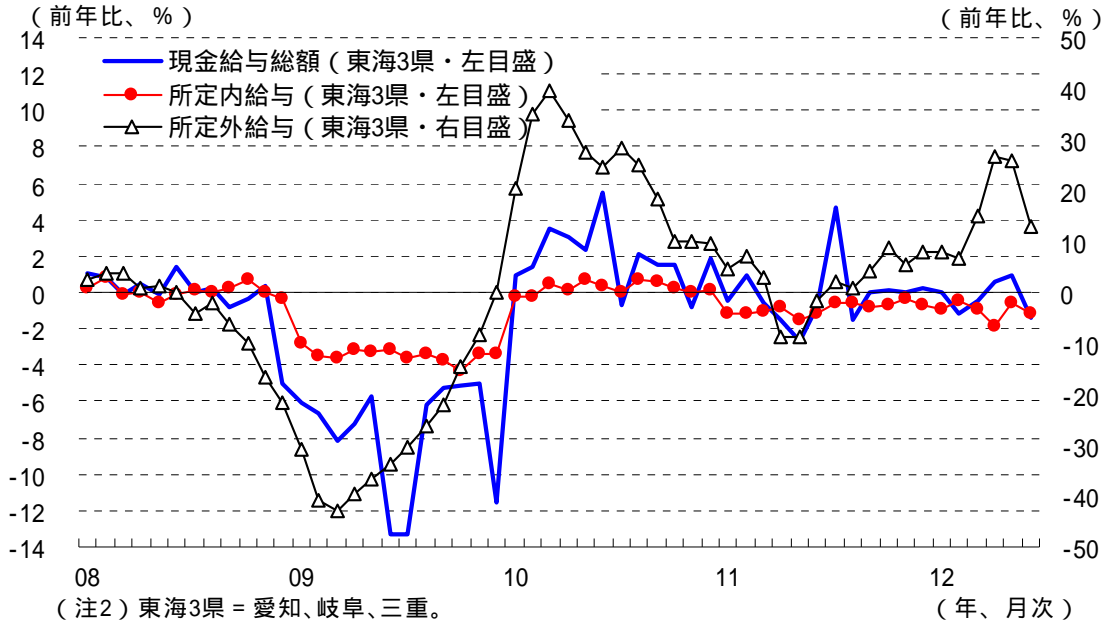
○7月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、愛知県が1.19倍と14ヶ月ぶりに悪化したほか、岐阜県も1.01倍と8ヶ月ぶりの悪化となった。三重県は0.94倍と横ばいだった。新規求人倍率(同)は、岐阜は1.47倍、三重は1.41倍と3ヶ月ぶりに小幅改善したものの、愛知が1.78倍と悪化した。



4. 賃金 ~弱含んでいる

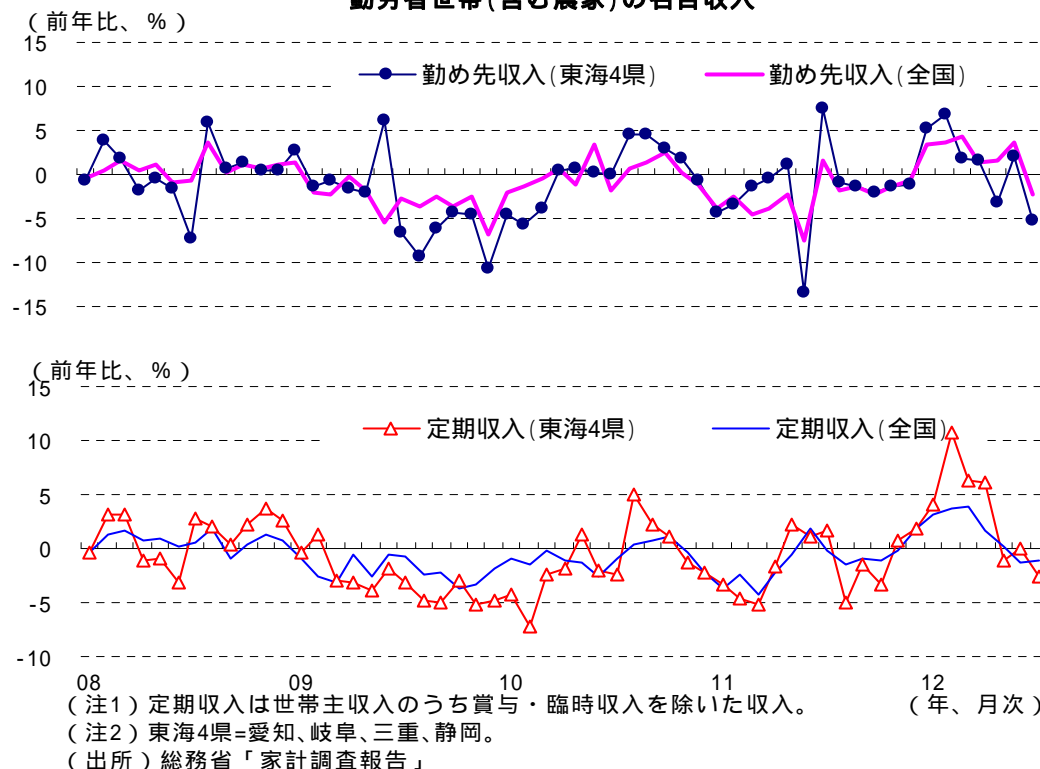
○6月の一人当たり現金給与総額は、前年比-1.4%とボーナス減の影響もあり3ヶ月ぶりに減少した。所定外給与は同+13.0%と12ヶ月連続で増加したが、所定内給与が同-1.2%と18ヶ月連続で減少している。賃金の持ち直しは所定外給与に限定されていたが、自動車生産のピークアウトにともない、増加幅が縮小している。企業の人件費抑制姿勢は根強く、今後も弱い動きが続くと見込まれる。

現金給与総額と所定内・所定外給与



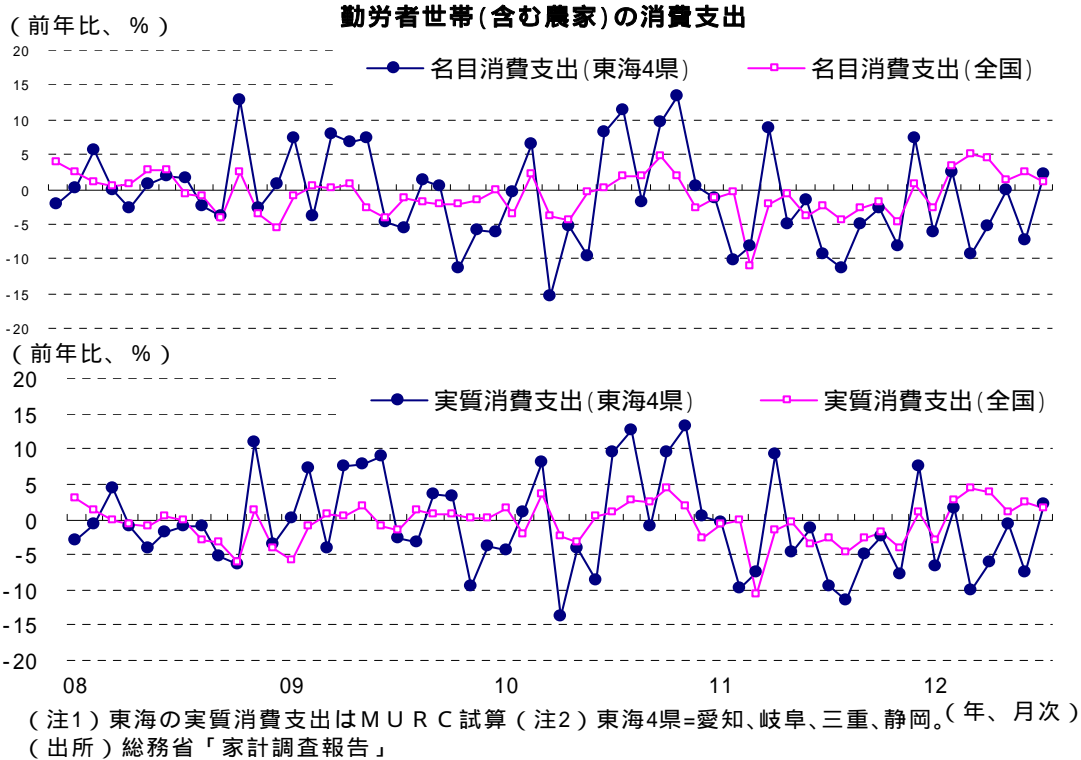
○ 家計調査によると、7月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比-5.2%と2ヶ月ぶりの減少となった。定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)は前年比-2.6%と3ヶ月連続で減少している。勤め先収入と定期収入は春先にかけて全国比で強めの動きとなっていたが、所定外給与の伸び悩みが響き、直近数ヶ月では全国よりも弱めの動きとなっている。

勤労者世帯(含む農家)の名目収入

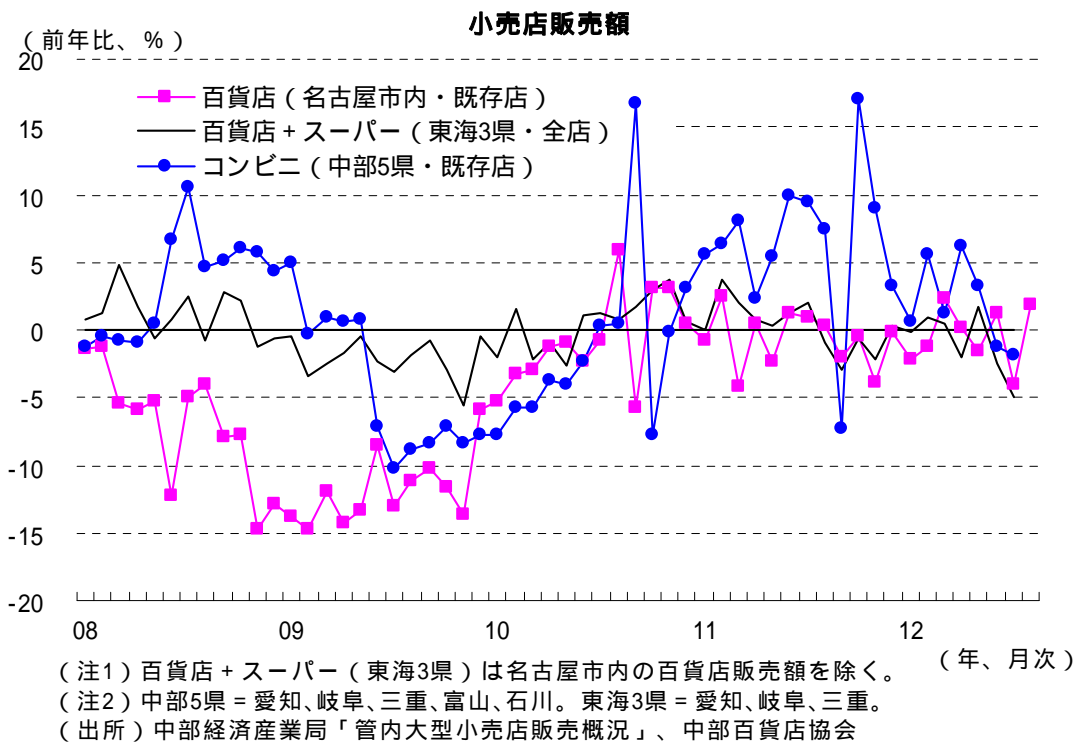


5. 個人消費 ～横ばい圏で推移

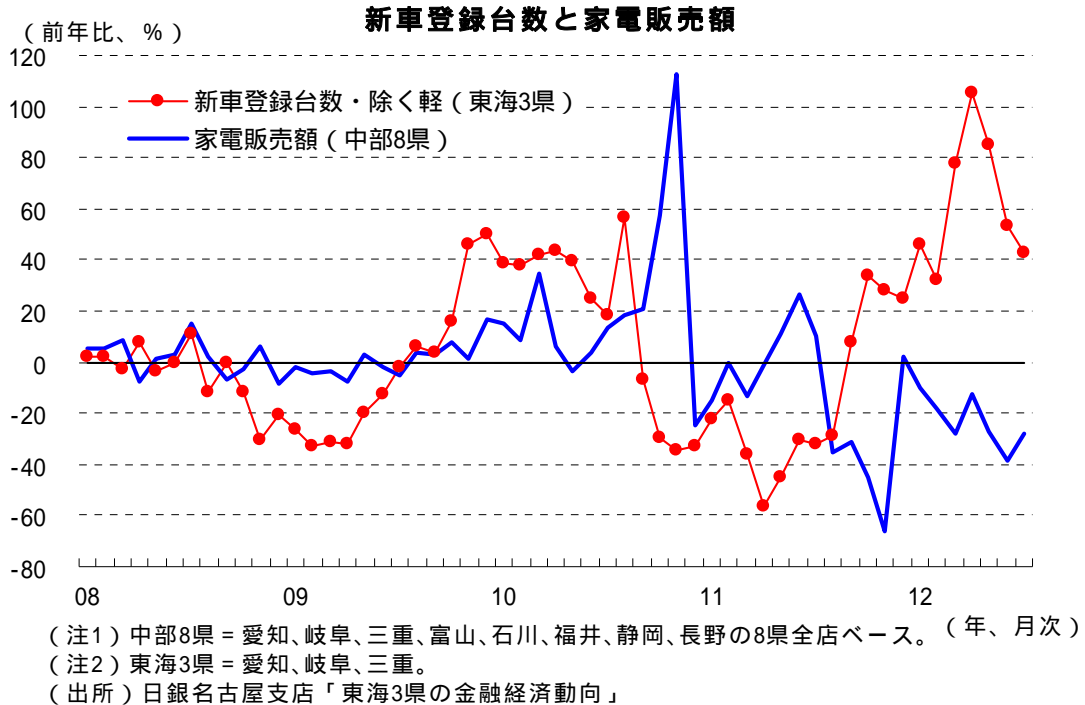
○7月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は、前年比+2.2%と5ヶ月ぶりに上昇した。しかし、非正規社員を中心とした雇用環境の持ち直しは一服しており、所定外給与の伸びも弱まっている。個人消費は底堅く推移しているものの、今後も横ばい圏での推移が見込まれる。



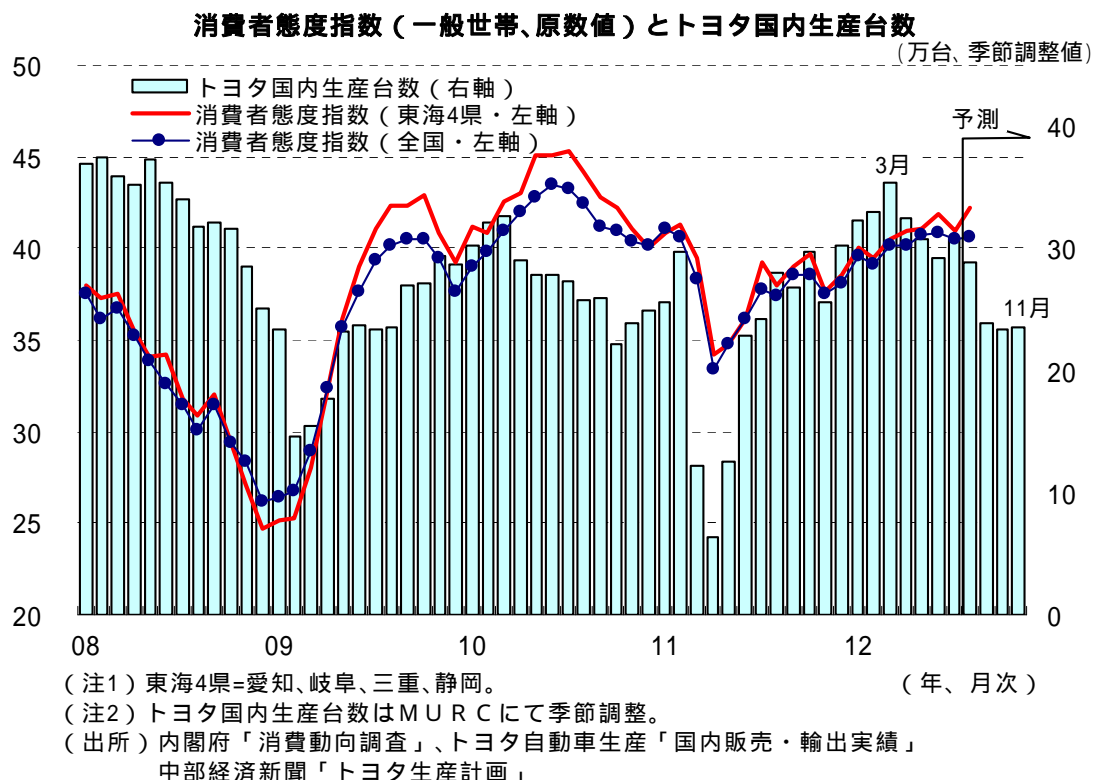
○8月の名古屋市内の百貨店販売額（速報値）は前年比+1.9%と、残暑の影響で夏物衣類が好調だったため2ヶ月ぶりに増加に転じた。一方、7月の東海3県の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額は同-4.7%、中部5県のコンビニ販売額も同-1.9%といずれも2ヶ月連続で減少しており、最寄品の消費は弱含んでいる。



○7月の東海3県の新車登録台数（乗用車、除く軽）は、前年比+42.5%と堅調な伸びとなった。しかし、度重なる買い替え支援策により需要を先食いしている面が大きく、エコカー補助金の駆け込み需要は当初の見込みほど出ていない。今後は、新車投入効果も限定的で徐々に反動減が出ると予想される。一方、中部8県の家電販売額はテレビ販売の不振が響き、前年比-28.0%と7ヶ月連続で減少した。

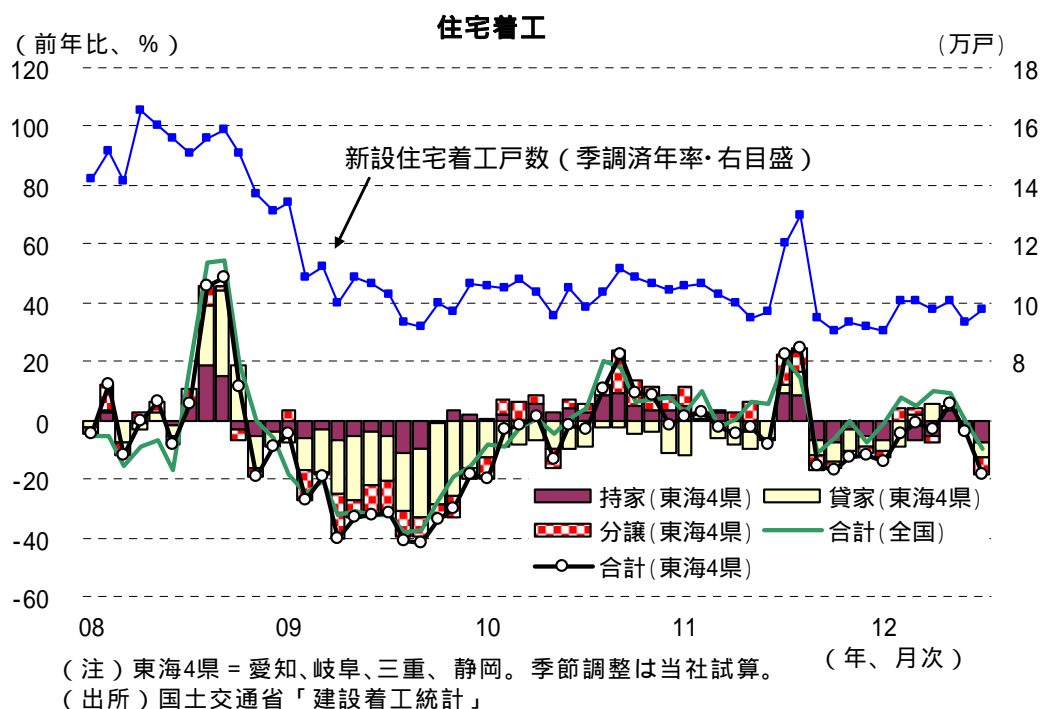


○消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は震災からの改善傾向が続いており、8月は前月比+1.2ポイントと上昇した。東海の消費者心理は改善傾向は維持しているものの、自動車生産のピークアウトにともなって一進一退を続けている。トヨタの生産計画では9月以降にさらなる低下が見込まれており、消費者マインドへの悪影響が懸念される。



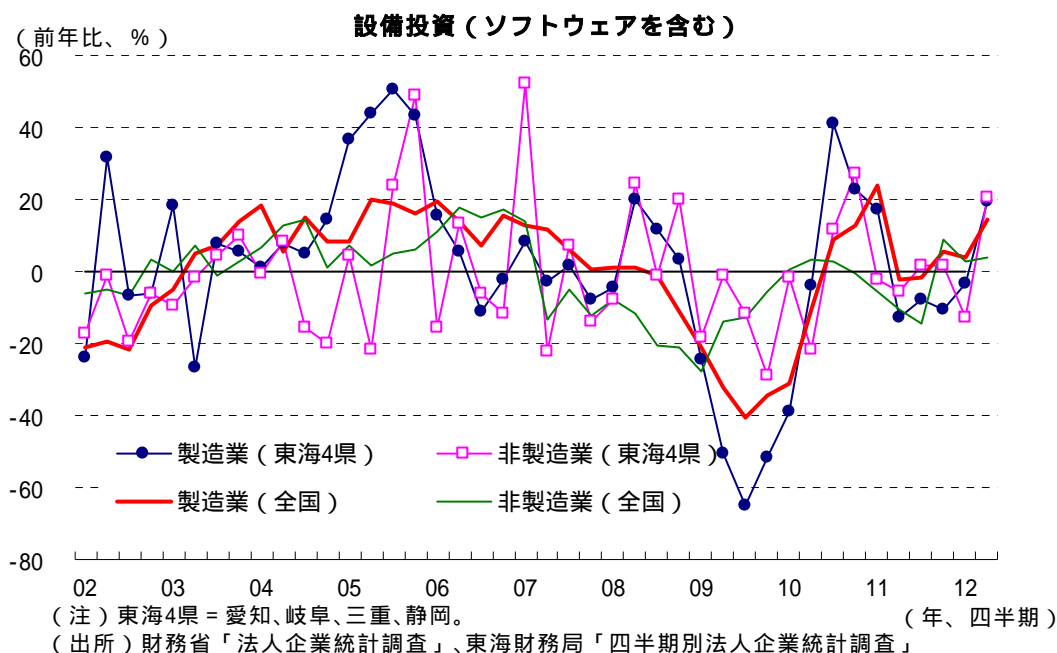
6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移

○7月の東海4県の住宅着工戸数は、前年比-18.7%の8412戸と前年の住宅エコポイント終了前の駆け込み需要の反動もあり2ヶ月連続で減少した。利用関係別の寄与度では、持家、貸家が2ヶ月連続、分譲が4ヶ月連続でマイナスに寄与した。全国と比べ回復が遅れていた東海4県の住宅投資は、雇用・所得環境の改善が頭打ちとなる中、今後も横ばい圏での推移が見込まれる。

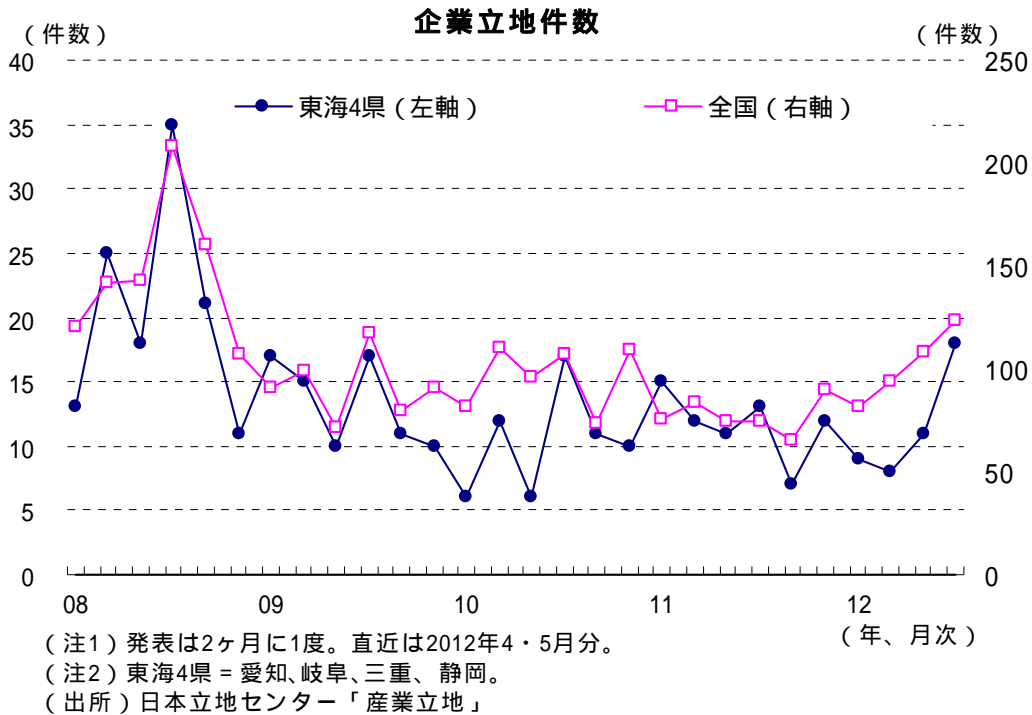


7. 設備投資 ~ 増加しつつある

○2012年4~6月期の東海4県の製造業の設備投資は前年比+19.4%と5四半期ぶりに大きく上昇した。非製造業(ソフトウェアを含む)も前年比+20.5%と上昇した。これまで設備投資は全国比やや弱めの動きが続いていたが、製造業・非製造業ともに全国を上回った。日銀短観6月調査によると、12年度の設備投資計画は、製造業(+23.3%)、非製造業(+15.2%)ともに大幅な増加が見込まれている。

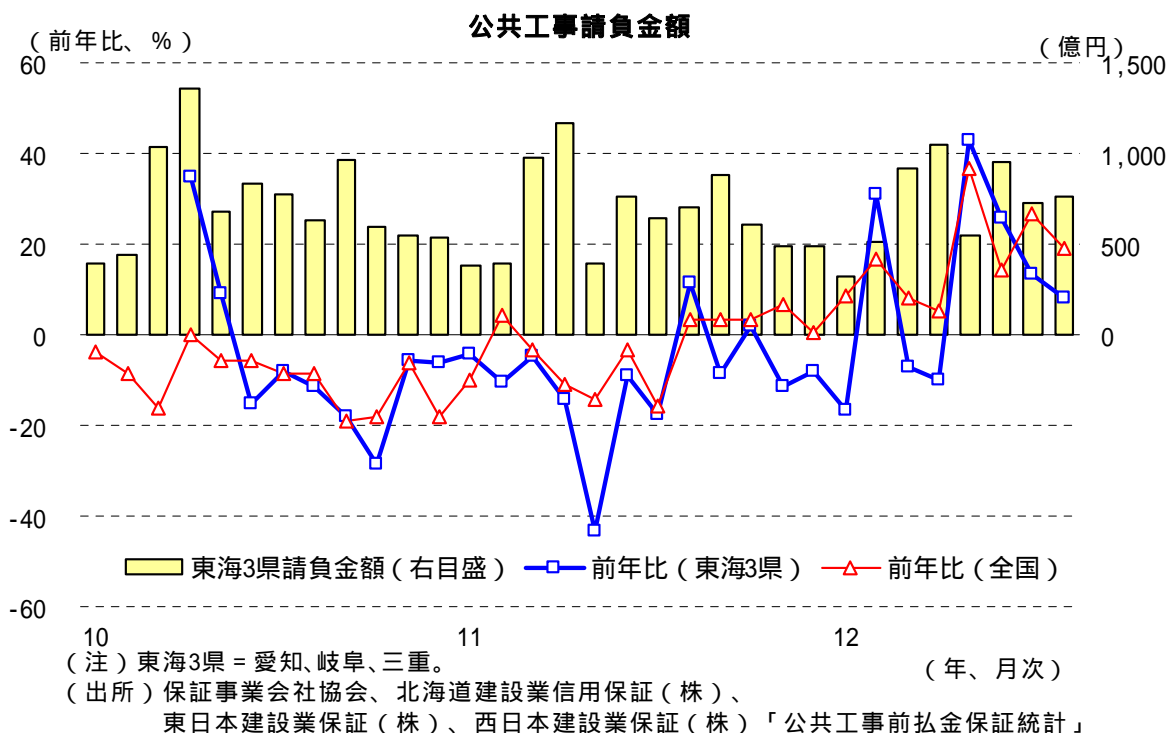


○2012年6・7月の東海4県の企業立地件数は、去年同期より5件多い18件となり、前期の4・5月と比べても増加している。輸出企業のウェイトが高いため、円高の定着により、製造業を中心に昨年度後半以降の企業立地件数は全国と比べて伸び悩んでいたが、ここに来て企業立地に持ち直しの動きが出ている。



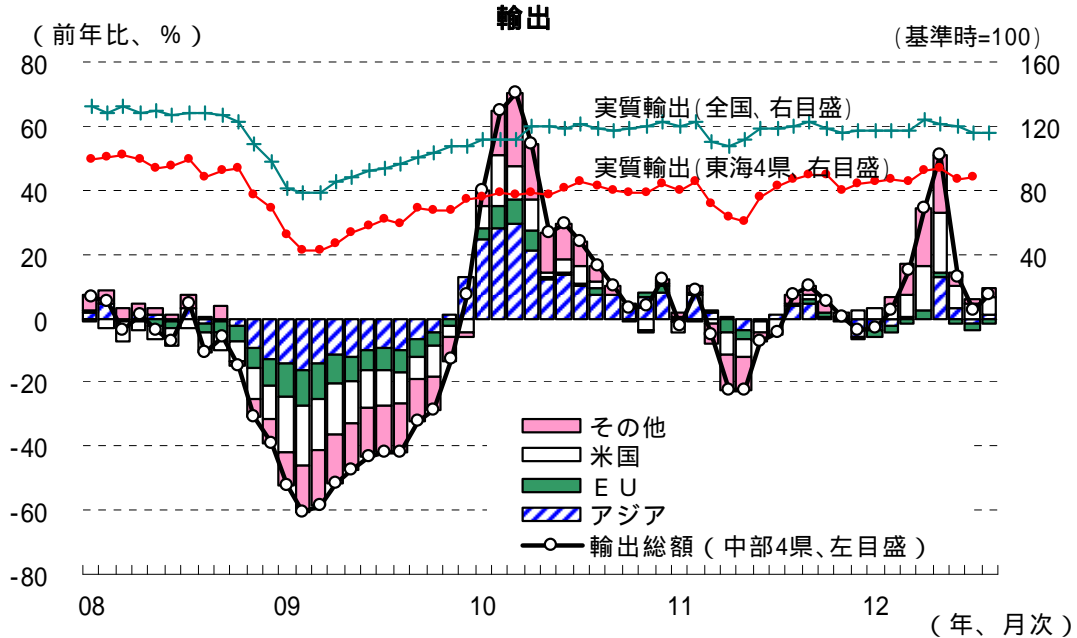
8. 公共投資 ~ 横ばい圏で推移

○8月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+8.3%の757億円と増加した。発注者別では国が前年比+110.6%と4ヶ月連続で増加した一方、地方は同-6.6%と5ヶ月ぶりに減少した。東海3県では、東日本大震災の復興需要による影響はみられず、全国と比べると低い伸びとなっているが、災害復旧および防災対策工事の発注などにより、今後も横ばい圏での推移が見込まれる。



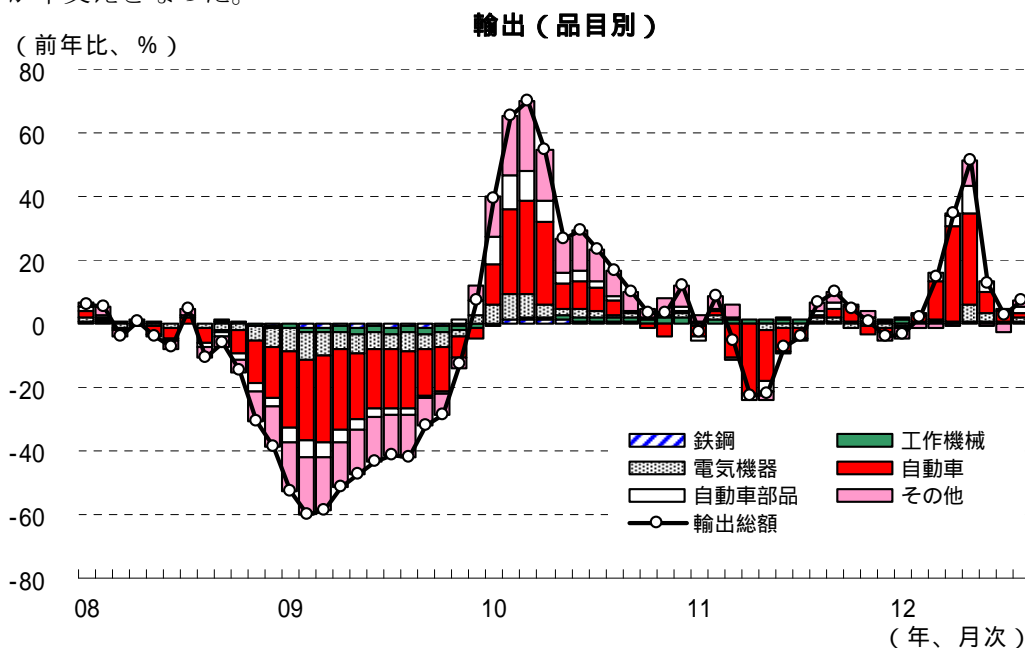
9. 輸出入 ~ 輸出、輸入とも増加が一服

○7月の実質輸出（季調済）の水準は2ヶ月ぶりに上昇した。また、8月の名古屋税関管内の輸出額は、前年比+7.4%と7ヶ月連続で増加した。地域別にみると、EU向けが3ヶ月連続で減少したが、米国向けは12ヶ月連続で増加し、アジア向けも2ヶ月ぶりに小幅に増加した。今後は、欧州や中国など海外景気の減速を背景に一服感が続くと思われ、特に中国向け輸出の動向に注意が必要である。



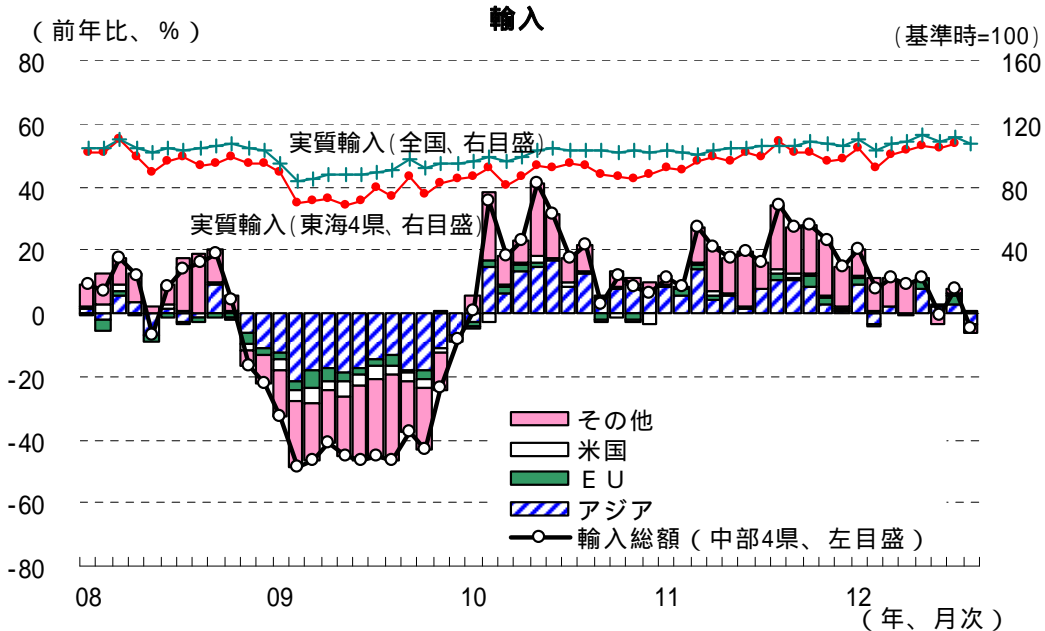
(注1) 実質輸出 = 東海3県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2005年。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋「東海3県の金融経済動向」

○8月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、前年比+7.4%の伸び率のうち、自動車の寄与度が+1.1%ポイントと低下したが、自動車部品（同+2.0%ポイント）や電気機器（+1.6%ポイント）の寄与が下支えとなった。



(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」

○7月の実質輸入（季調済）の水準は2ヵ月ぶりに上昇した。また、8月の名古屋税関管内の輸入額は、前年比-5.1%と2ヶ月ぶりに減少した。地域別にみると、中東などその他地域からの原油やLNGガスの輸入に伴う寄与度が-2.7%ポイントとマイナス寄与に転じ、アジアからの輸入も-3.4%ポイントと4ヶ月ぶりにマイナスに寄与した。今後は、横ばい圏での推移が続くとみられる。



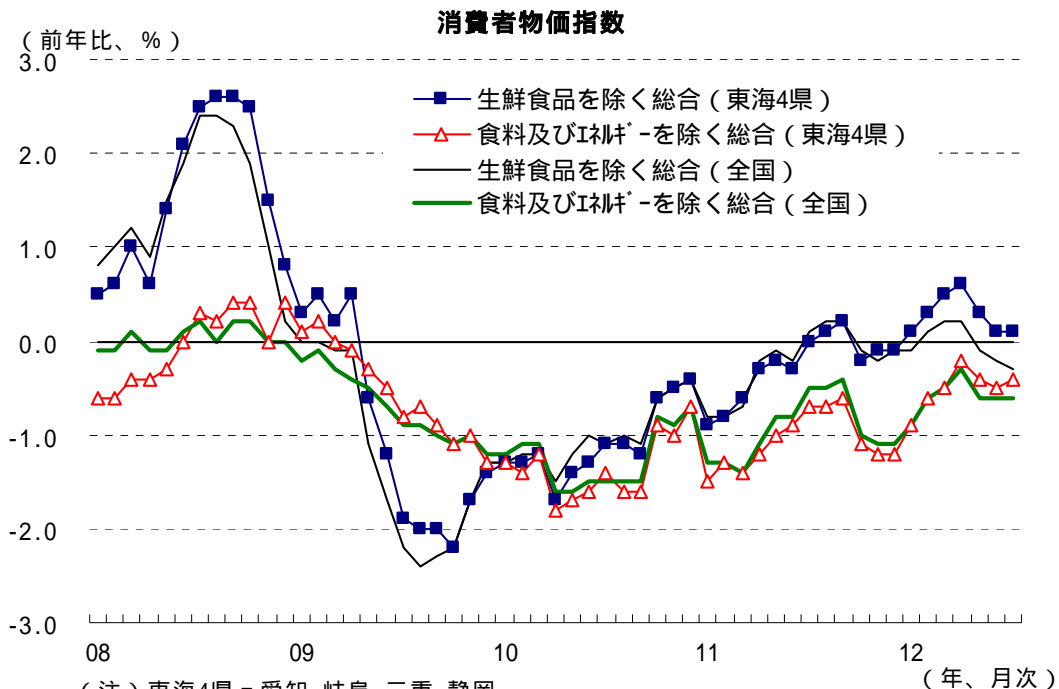
(注1) 実質輸入 = 東海3県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2005年。

(注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋「東海3県の金融経済動向」

10. 物価 ~ 消費者物価は横ばい

○7月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合では、ガソリン価格が下落する一方、電気・ガス代が上昇し前年比で+0.1%と横ばいとなった。食料・エネルギーを除く総合では、薄型テレビなどの家庭用耐久財は下落したものの-0.4%と下落幅は縮小した。家計の所得環境の持ち直しは緩やかで、依然として物価の上昇圧力は弱い。今後も、消費者物価は横ばい圏で推移すると見込まれる。

































(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。

(出所) 総務省「消費者物価指数」

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→		→	輸出	全国	→		→
	東海	→		↘		東海	→		→
	関西	→		→		関西	↘		↘
個人消費	全国	→		→	輸入	全国	↗		→
	東海	→		→		東海	→		→
	関西	→		→		関西	→		→
住宅投資	全国	→		↗	生産	全国	↘		↘
	東海	→		→		東海	↘		↘
	関西	↗		→		関西	→		→
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	→		→
	東海	↗		↗		東海	→		↘
	関西	→		↗		関西	→		→
公共投資	全国	↗		↗	賃金	全国	→		→
	東海	→		→		東海	→		↘
	関西	↗		→		関西	→		→



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャド-部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は9月4日時点の予報。

【各項目のヘッドライン】

項目		8月のコメント	9月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	持ち直しが一服
	東海	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
	関西	横ばいで推移している	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
2. 生産	全国	横ばい	弱含んでいる
	東海	横ばい圏で推移	減少している
	関西	横ばい圏で推移	弱含んでいる
3. 雇用	全国	厳しいものの、持ち直しの動き	厳しいものの、持ち直しの動き
	東海	持ち直しの動きが弱まっている	持ち直しの動きが一服している
	関西	厳しいものの、持ち直しの動き	厳しいものの、持ち直しの動き
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	弱含んでいる
	東海	横ばい圏で推移	弱含んでいる
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	持ち直しが一服
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
6. 住宅投資	全国	緩やかな持ち直し基調にある	緩やかな持ち直し基調にある
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	緩やかに持ち直している	横ばい圏で推移
7. 設備投資	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	増加しつつある	増加しつつある
	関西	持ち直しつつある	持ち直しつつある
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	このところ増加している	このところ増加している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直しの動きがみられる、輸入は増加している	輸出は弱い動き、輸入は増加している
	東海	輸出、輸入とも増加が一服	輸出、輸入とも増加が一服
	関西	輸出は弱い動き、輸入は横ばい	輸出は弱い動き、輸入は横ばい
10. 物価	全国	国内企業物価は緩やかに下落、消費者物価は横ばい	国内企業物価、消費者物価とも緩やかに下落
	東海	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい
	関西	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金は増加、貸出は小幅に増加	預金は増加、貸出は減少
	関西	預金は増加、貸出は横ばい	預金は増加、貸出は横ばい
12. 倒産	東海	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに増加
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少

(注) シャドウ部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。**【今月の景気予報】**における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

○現況・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。

○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。